

## 藤樹人間学塾： 藤樹思想を学び考え実践する

塾長 田中清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に藤樹思想を学ぶとともに、今日的意義を自分の頭で考え、仲間と議論しながら考えを深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月第一土曜日の午後、開催しています。本会報ではその模様をお伝えいたします。

一月十四日（土）午後、第65回藤樹人間学塾を安曇川公民館で行いました。

冒頭にスリランカに旅した話をしました。スリランカは国民の七十五%が釈尊直伝の教えを信心する上座部仏教徒です。人々は貧しくとも笑顔が印象的だったのは、仏教が浸透しているからだと感じてとても良い気持ちになった話をしました。

次に『孝経啓蒙』では、孝治章（孝もて治むるの章）を学びました。……子曰く、むかし明王の孝をもつて天下を治るや、あえて小国の臣をすてず……この章の大意は、孝による一般政治は下位の者を人間として遇するものであるから、下位の者の心からの支持を得ることができ、天下は平和に治まり、災害も発生せず、世の乱れも起こらない……。

フリートキングでは、聖王による孝の統治は性善説によっている。

現代社会は性悪説が主流になりつつあるが、性善説の世の中にしないと心の安定は得られないのではないかなど話し合いました。

二月四日（土）午後、第66回藤樹人間学塾を安曇川公民館で行いました。

草津で開催される「先人学研究フォーラム」の「郷土の誇り・日本の誇り 中江藤樹」の発表をする話をしました。この中で藤樹の「孝」の思想を図にまとめました。

次に『孝経啓蒙』では、聖治章（聖の治むるの章）を学びました。

……子曰く、天地の性、人もて貴しとなす。人の行い 孝より大なるはなし。……この章の大意は、この世で最も高い人間の道徳の中で孝より価値の高いものはない。その中身として君主が天や親を尊敬する以上のものはない……。

フリートキングでは、本章では、宗教より孝の方が上だと述べている。……本塾では藤樹の教えを鵜呑みにするのではなく、人間としての生き方を共に学んでいくことに努めよう、など話し合いました。

三月四日（土）午後、第67回藤樹人間学塾を安曇川公民館で行いました。

初参加の女性を含む十一人での学びでした。

最初に「月刊致知」の一月号に掲



載された鈴木秀子氏の「天に宝を積む生き方」の中で、キリストの教えと藤樹の教えが「天を敬する」という点で一致がある話をしました。

次に同二月号で鍵山秀三郎氏が「君子はその言葉のその行いに過ぐるを恥ず」の中で、君子の話をされているがその意味を考えることにしました。

『孝経』を素読の後、『孝経啓蒙』の中で、今回は聖人が徳をもって政治をする章を学びました。その中で、政治（他人を幸せにする）のために知識に習熟するだけでなく、徳を磨き、人間としての人格を磨かねばならない。こうした知性と徳性を兼ね備えた教養人が君子であることを学びました。

四月一日（土）午後、第68回藤樹人間学塾を安曇川公民館で行いました。

冒頭、石田梅岩『都鄙問答』の現代語訳本が出たのでその話をしました。梅岩の教えは、「石門心学」と呼ばれ、『都鄙問答』は、その代表作です。性善説が思想の根幹をな

しているのは、藤樹心学と同じですが、梅岩は、商人道ともいえるべき思想を持っていて、まじめに商売する商人の利益は、武士の俸禄と同じだと主張して商人の地位を高め、事業家に勇気を与えました。

この本の中に「親孝行とは、父母の身体を養うことだけでは不十分で、父母の志を養わなければならない」という言葉があります。

今回は、『孝経啓蒙』の中の「孝行を記すの章」を学ぶ日であったので、石門心学と比較しながら、皆で親孝行について考えました。

親子間の距離が遠くなっている現代の親孝行はどうあるべきか、自分には子供から尊敬されているか、等々……皆で学び、議論することにより、孝行について意識が深まるのを感じる二時間でした。

本塾には、新しく参加される方が徐々に増えていきます。「学ぶは楽しい」。皆さまのご参加をお待ちしています。

【藤樹人間学塾 今後の予定】

五月六日（土）、◎六月三日（土）、七月一日（土）、八月六日（日）、◎九月二日（土）、十月七日（土）

時間 十五時〜十七時  
場所 安曇川公民館

◎印は塾終了後、別場所で開催あり